県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.118
2023年12月
2024年1月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000（代表）　ＴＥＬ：079-497-7011（地域医療連携部直通）　ＦＡＸ：079-438-3756（地域医療連携部直通）

もくじ

- 新年挨拶 …… 1
- 生活習慣病センター …… 2
- 肝疾患センター …… 3
- 内視鏡センター …… 4
- リウマチ膠原病センター …… 5
- 脊椎外科センター・骨粗鬆症センター …… 6
- 血液浄化センター …… 7
- 外来診療表 …… 8

新年挨拶

院長　田中宏和

新年、あけましておめでとうございます。平素より当センターの運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、令和２年１月に発生した新型コロナ感染症が一段落し、５月からは感染症法の５類に格下げされ、新型コロナ感染症の兵庫県の拠点病院である当センターもコロナ前の診療体制にもどりつつあります。ただ、３年はあまりにも長く、コロナ前にもどるのが遅れている分野もあります。特に時間外の救急患者さんへの対応が、数字から判断すると 10 ポイントぐらい悪くなったと思います。本年度は、患者様に迷惑をかけることのないようにがんばっていく所存です。

さて、昨年は、ロシアのウクライナ侵攻が収束せず、円安による物価高、ジャニーズ事務所問題、最後にはイスラエルとパレスチナの戦争が勃発し、暗いニュースが多かった１年でした。しかし、WBC ワールドベースボールクラシックの優勝、大谷フィーバー、38 年ぶりの阪神タイガースの日本一、ヴィッセル神戸の Ｊリーグ制覇、将棋の藤井聡太のタイトル八冠など、うれしいニュースもありました。今年は辰年。十二支のなかで最も縁起がよく、夢が叶う年と言われています。龍が暗いニュースを食い破り、皆様方の運気を上昇させ、すばらしい一年になることを祈っております。

加古川医療センターは、本年も「やさしさとぬくもりのある質の高い医療を実践し、地域の基幹病院として住民の安心に貢献します」という当センターの理念を大切にし、地域住民の皆様から信頼され、安心してかかっていただける地域の基幹病院としての役割を果たしていきたいと考えています。ただ、当センターの置かれた状況は大変厳しいものと認識しております。病院統合による大病院への医療資源の集中化、兵庫県立病院に係わる財政状況の悪化、今年度から開始される医師の働き方改革による医師の労働時間の制限など、大変頭の痛い問題が山積しております。そのためにも、地域の医療・介護機関とのさらなる連携を推進して参りたいと存じますので、引き続きのご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。今後も、全職員が一丸となって、皆様に信頼され、“ケンカコ” に紹介してよかったと思っていただけるようにがんばりたいと思います。

生活習慣病センターの活動

生活習慣病センター長　**飯田啓二**

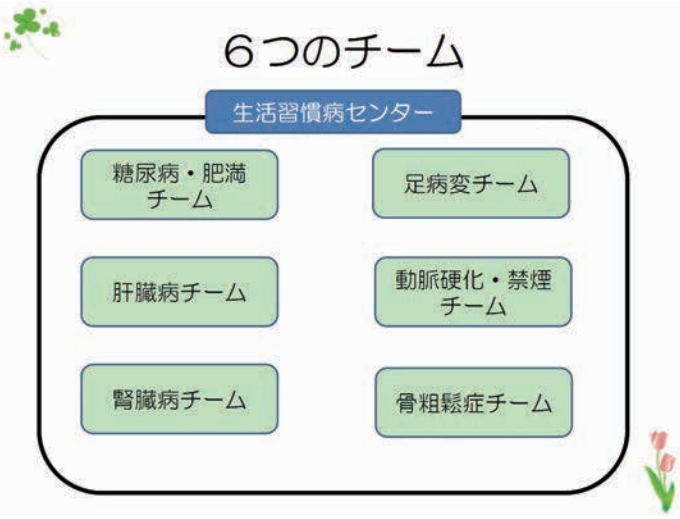
当院の生活習慣病センターは、生活習慣病の全県の拠点的な機能を充実させるため、2009年11月に新病院開設とともに政策医療の１つとして設立されました。医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士等により生活習慣病コアユニットが構成されており、各担当科と協力して治療にあたっています。現在、肝臓病チーム、糖尿病･肥満チーム、足病変チーム、動脈硬化･禁煙チーム、腎臓病チーム、骨粗鬆症チームの６つが活動しており、外来教室による啓蒙活動を中心にさまざまな活動を行っています。

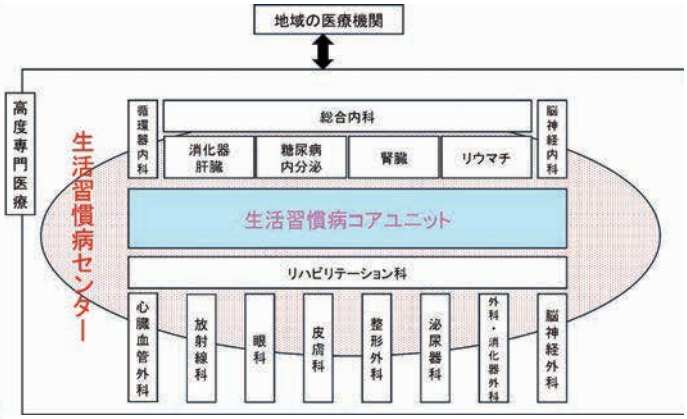
1Fエレベーター前にある学習ひろばでは、食事についての豆知識を掲示してあるほか、食事相談や生活習慣病に関する各種の資料を取り揃えています。当院通院中の患者さんだけでなく、どなたでも利用可能なスペースです。午後には、各チーム主催の外来教室が開催されます。各種教室のスケジュールの最新版は学習ひろばの壁に掲示してあるほか、当院ホームページでも確認いただけます（http://www.kenkako.jp/department/center/lifestyle-disease/）。コロナ禍で丸２年間、外来教室は中止を余儀なくされましたが、現在は人数制限を設けながら再開しております。

定期的に「生活習慣病だより」を発行しており、医療者に対しての疾病の啓蒙活動にも取り組んでいます。疾病予防のための生活習慣病センターをぜひご利用ください。

■生活習慣病センターの各チームとチームリーダー
センター長：飯田啓二（糖尿病・内分泌内科）

チーム名	チームリーダー（診療科）
肝臓病	尹　聖哲（消化器内科）
糖尿病・肥満	飯田啓二（糖尿病･内分泌内科）
足病変	増田泰之（皮膚科）
動脈硬化・禁煙	岩田幸代（循環器内科）
腎臓病	加藤陽子（腎臓内科）
骨粗鬆症	青木謙二（整形外科）





肝疾患センター

副院長 兼 肝疾患センター　尹　聖哲

肝炎ウイルス検査の結果説明が義務付けられました

ウイルス肝炎は肝硬変や肝がんに進展する確率が高い一方で、治療薬が飛躍的に進歩したため早期発見、早期治療が望まれます。しかし無症状であるため受検する機会が少なく、肝炎ウイルス検査によるキャリアの拾い上げと適切な医療への結びつけが極めて重要とされています。ところが、術前検査などで肝炎ウイルス検査を行ったにもかかわらず、患者に結果を通知していなかったり、陽性者であることを知りながら医療機関が治療に結び付けず放置したりしている例が存在し、患者の治療機会の喪失につながるばかりか訴訟問題に発展するケースもあり医療安全面でも喫緊の課題となっていました。

このような状況を踏まえ、平成 26 年に厚労省より肝炎ウイルス検査の検査目的や結果の陽性・陰性にかかわらず適切な説明を行うよう通達が出されましたが、令和 4 年 3 月には、「医療機関の規模を問わず、肝炎ウイルス検査の結果について確実に説明を行い、受診につなげるように取り組む」と結果説明の義務と受診勧奨が強調されました。当センターではこれを徹底するために新しい電子カルテシステムを導入しました。医師、肝炎医療コーディネーター、コメディカルが協力して陽性者の発見と受療に力を入れています。

地域医療機関におかれましても、ウイルス検査の結果説明と陽性者の専門医受診をお勧めいただきますようお願いいたします。また肝炎ウイルスの未検者や陰性者であっても肝機能異常（ALT ＞ 30IU/L）の患者がおられましたら是非ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

内視鏡センター

内視鏡センター長 兼 消化器内科部長　**埒本喜雄**

2018年4月1日に内視鏡センターが設立されてから5年6ヶ月が経過しました。2020年3月からはコロナ感染症対応に追われる日々でありますが、withコロナで臨機応変に対応し、afterコロナの中で頑張っています。減少していた内視鏡件数もコロナ前に戻りつつあります。院内では消化器内科以外に消化器外科、救急科、総合内科などと広く協力して内視鏡診療に取り組んでいます。

医療レベル向上のため神戸大学の胆膵グループから超音波内視鏡医を派遣してもらっています。また消化管病理の専門医を招いてカンファレンスを月1回開催したりしています。地域連携を通して近隣の病院・医院へ積極的に情報発信し、開業医から直接紹介して頂いて当日内視鏡施行するシステムも再開しています。詳しくは加古川医療センターのホームページをご参照ください。

内視鏡センターでは、最新の機種を取り揃えて最先端の技術を提供できるように実践しております。日常診療では、ハイスペックな拡大観察できる内視鏡をほぼ全例に使用し、見逃しなく、詳細な診断をできるようにしています。また毎年受けても大丈夫のように安全で苦痛の無い内視鏡検査を心がけています。患者さんの不安をできる限り取り除けるように、プライバシー保護にも心がけています。当院は、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設・日本消化器病学会認定施設に認定されています。図書の充実（胃と腸、肝胆膵などの専門月刊誌を5種類以上定期購読。各種最新のガイドライン）、検索の充実（UpToDate, ClinicalKeyなど）にも力を入れ、内視鏡のトレーニングモデルも取り揃えています。内視鏡専門医を目指す医師の教育・育成に力を入れています。

またＥＳＤ・ＥＭＲ・ポリペクやＥＶＬや胃瘻造設などの通常内視鏡治療はもとより、緊急内視鏡（止血術や遺物除去など）から食道ステント・大腸ステント挿入などの緩和的処置まで対応しており、臨床的な貢献は多岐に及んでおります。

消化器内視鏡の魅力の一つは、診断して治療するところまで自己完結できるところにもあると思っています。例えば、内視鏡を用いて早期胃がんや食道がんを自分で見つけて自分で内視鏡治療できるところなどです。我々医師・看護師を含めた内視鏡スタッフは、内視鏡を通じて皆様（地域の皆様）の元気と幸せに貢献できることを目標に日々精進している次第です。

透視下内視鏡室

リウマチ膠原病センター

リウマチ膠原病センター長 兼 リウマチ科部長・整形外科部長　**中川夏子**

当リウマチ膠原病センターは、2016年4月より診療を開始、内科と整形外科の専門医が月曜から金曜まで毎日診察を行っています。(現在内科医7名、整形外科医2名・毎日4診体制です)

■ 当センターの特徴

当センターの特徴は、内科医と整形外科医が同じセンター内で一緒に外来診療を行う形をとっていることです。このことから、外来診療の中で、内科医と整形外科医の連携がとりやすくなり、より良い治療効果につながっています。

私たちは「断らないリウマチ科」をモットーに日々診療に取り組んでおり、兵庫県下全域、さらには近県府県からもご紹介をいただいております。現在当センターには約3400人の方々が通院されており、生物学的製剤、JAK阻害薬などの最新治療薬を含めいずれの抗リウマチ薬も当院で処方可能で、使用されている患者さんも年々増加しています。生物学的製剤の自己注射指導につきましては経験と知識の豊富な看護師が丁寧に説明いたします。もちろん関節リウマチ以外の多数の膠原病患者様の加療も行っています。関節リウマチ関連の手術も積極的に行っており、手術件数は、2016年4月から2023年3月までで合計1227件となっております。

■ 関節リウマチの診断・治療について

現在、関節リウマチは、治療の進歩により寛解を目標とすることが可能です。また、骨破壊が発症後早期に急速に進行することも明らかとなっており、症状出現後の迅速な診断と速やかで適切な治療開始が極めて重要な時代となっています。関節リウマチの診断や薬物治療についてのご相談、または関節リウマチの手術に関するご相談も、適応の判断なども含めまして、どのようなことでも随時受け付けております。手術については、高度な手指・足部の変形など、対応は無理なのでは？と思われるような場合でも、当科では手術検討可能ですので、ぜひご相談・ご紹介ください。膠原病に関しても、疑わしいがはっきりしない、否定できないような症状があるなどの場合はぜひご紹介ください。

関節リウマチでは手指・手首・足指に症状が出やすいため
図のような変形も起こりやすいです
お困りの患者様がおられましたら
ぜひご紹介ください

■ スタッフ紹介

中川　夏子　(リウマチ膠原病センター長・リウマチ科部長兼整形外科部長　昭和60年卒)
日本リウマチ学会理事・専門医・指導医・評議員
日本リウマチ財団理事・登録医、日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医・スポーツ医・運動器リハビリテーション医
日本手外科学会認定手外科専門医

吉原　良祐　(リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長　昭和60年卒)
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会総合内科専門医

村田　美紀　(リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長　平成6年卒)
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会指導医・認定医、日本リウマチ財団登録医

上藤　淳郎　(リウマチ科医長兼整形外科医長・リウマチ膠原病センター医長　平成18年卒)
日本整形外科学会専門医

天野　典彦　(リウマチ科医長兼リウマチ膠原病センター医長　平成25年卒)
日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医

北野　貴之　(リウマチ科専攻医、令和3年卒)

塩澤　和子　(非常勤医師　昭和51年卒)
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会指導医・認定医、日本リウマチ財団登録医

田中　泰史　(非常勤医師　昭和57年卒)
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定医、日本リウマチ財団登録医

西田　美和　(非常勤医師　平成19年卒)
日本リウマチ学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医

リウマチ膠原病センター
外来スタッフと共に

医師：9名(リウマチ学会専門医7名・指導医6名)
(内科医師6名・整形外科医師2名・専攻医1名)
10月から専攻医の北野貴之先生が仲間に加わりました！

脊椎外科センター

副院長 兼 脊椎外科センター長　**高山博行**

2018 年から「脊椎外科センター」が開設され、紹介は月水曜日の整形外科初診 1 で受け付けております。慢性疾患は保存的治療が無効の場合に手術を考慮いたしますが、急性期病院ですので入院での保存的治療は最小限とさせていただいております。

手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しています。椎間板ヘルニアなどの手術は、原則として**内視鏡**や**顕微鏡**を使用しての低侵襲手術を行っています。低侵襲だけでなく、脊椎手術では非常にデリケートな脊髄神経を扱うことも多いため、安全のため**術中脊髄機能モニタリング**を併用して手術を行っています。

コンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法

椎間板内に注入することにより、椎間板内の水分が吸収されて内圧が下がり、椎間板ヘルニアを縮小させるという作用機序です。ヘルニアのタイプによっては手術と同等の成績が報告されています。当院はコンドリアーゼ注入療法の認定施設であり、数多くの使用実績があります。

高齢人口の増加とともに、脊柱変形や、多椎間の脊柱管狭窄症などで広範囲の脊椎固定術を要する症例も増えています。こういう広範囲の脊椎固定術は侵襲が非常に大きく、低侵襲の**経皮的スクリューや前側方進入椎体間固定 (LLIF)** などを行っております。術前に椎体周囲の脈管の位置を充分に精査した上で、神経モニタリングも併用しながら LLIF を行っています。

ナビゲーションシステム

昨年度より解像度の高い術中 CT 撮影可能な透視装置 **O アーム**を導入し、最新の**ナビゲーションシステム**との連動により、さらに低侵襲かつ低被爆、正確性の高い脊椎スクリュー挿入が可能となりました。ナビゲーションには即時性と正確性の両方の利点があり、より早くより安全な手術が可能です。脊椎損傷など緊急手術だけでなく、脊椎固定術ほぼ全例にナビゲーション使用範囲を広げております。

また高齢化により、骨粗鬆症による脊椎椎体骨折も増加しており、充分な保存的治療でも除痛が得られない場合には **Baloon Kyphoplasty (BKP)** の適応となります。これは骨折して圧潰した椎体をバルンで膨らませて整復し、セメントを注入して固める低侵襲手術です。当院は BKP の認定施設にもなっております。

新型コロナウイルス感染症も 5 類格下げとなり、徐々にコロナ前の通常診療体制に戻りつつあります。今後とも脊椎外科センターをよろしくお願い申し上げます。

骨粗鬆症センター

整形外科部長 兼 骨粗鬆症センター長　**青木謙二**

高齢化により骨粗鬆症患者が急増しており、骨粗鬆症の治療にも力を入れています。骨粗鬆症治療は生涯にわたる継続が必須であり、2016 年度に「東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク」を立ち上げ、近隣医療機関と連携しての地域全体での治療を目指しています。2019 年度には「骨粗鬆症センター」も開設し生活指導も含めた包括的な治療（リエゾンサービス）の拡充を目指しております。

当院では「再骨折予防サポートシステム」として骨折入院中の患者さんの検査、評価を行い骨粗鬆症の治療を開始すると共に、多職種連携により患者さんやご家族の骨粗鬆症への理解を深め、検査結果や治療薬など記録した「再骨折予防手帳」をお渡しすることで、他施設との連携を強めると共に、骨粗鬆症の途切れない再骨折予防を進めたいと考えています。

再骨折予防手帳

東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議

血液浄化センター

腎臓内科部長 兼 血液浄化センター部長　加藤陽子

4月

山本真有佳先生が着任しました。
本人からのメッセージです。

検尿異常や腎機能異常の進行等でお困りの患者さんがいらっしゃれば、ご紹介頂けますと幸いです。地域の皆様のお役に立てるように鋭意努力しますので、どうぞよろしくお願い致します。

5月

新型コロナが５類感染症扱いとなり、今年度は通常診療となり、また患者向けの勉強会を再開しています。

当科でも腎臓病教室を今年度は２クール行いました。参加者の方から「聞きに来て有意義な時間が過ごせた」などのお言葉を直接聞くことが出来て私達もうれしかったです。来年度も引き続き行う予定ですので、奮ってご案内・ご参加下さい。

慢性腎臓病（CKD）は成人の 7-8 人に１人とされ、最近では TV や新聞での報道を見かけるようになりましたが、まだまだ認知度は低い状態です。国は新規の透析患者数を現在の３万７千人から 2028 年度までに３万５千人以下にする目標を掲げています。つまりあと５年で２千人減らすということです。進行すると腎障害は治りませんが、より早期であれば進行を食い止めることや改善することも可能です。また治療可能な病気が隠れている場合もあります。気になる患者様がいらっしゃればご紹介頂ければ幸いです。

慢性腎臓病（CKD）
（尿の異常または腎機能 60 未満が３か月以上続く）

７－８人に１人。生涯を通じては
２人に１人が経験するとも言われます。

集合写真

県立加古川医療センター外来診療表

令和５年12月４日（月）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		石田	大北	藤田		中村
消化器内科	１診		垰本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	田村	【尹(ゆん)】(再診のみ)	垰本(さかもと)
	２診		廣畑	岡田	廣畑	廣畑	安富(午前)岡田(午後)
	３診			渡部		白川	担当医
循環器内科	１診		福田	担当医(～14時)	岩田	担当医	岩田
	２診		【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科			下村	奥田	奥田(午前)下村(午後)		奥田
							下村(午後)
糖尿病・内分泌内科	１診		飯田	藤田	飯田	石田	樫谷
	２診			【後藤】	藤川(午前)永野(午後)		稲山(午前)
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
	サポーティブケア外来 (緩和ケア外来)		田中		田中		田中
生活習慣病			【尹(ゆん)】 肝炎(午後)	【戎谷(えびすたに)】 糖尿病・肥満	【合田】 糖尿病・肥満	【西山】 糖尿病・肥満	冨安
			【福田】 禁煙(午後)	装具外来			
リウマチ科	１診		中川	上藤			中川
	２診		天野	塩澤	塩澤		天野
	３診		西田	吉原	吉原	吉原	担当医
	４診		村田	西田	村田	村田	担当医
	５診		田中	リウマチ相談	田中	田中	リウマチ相談
腎臓内科	１診	午後		加藤		加藤(1, 3, 5週)	
外科・消化器外科	１診		高瀬	川嶋	小林	担当医	髙瀬
	２診		中川	谷川	門馬(もんま)		
心臓血管外科				担当医			担当医(午後)
脳神経外科	１診		担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	２診			松木	荒井		松木
乳腺外科	１診		石川	石川		石川	担当医
	２診		小林	担当医		小林	
整形外科	初診１診		青木	上藤	高山	西原	中川
	初診２診		高原		北山	神村	
	再診１診		【上藤】	中川	原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【北山】		
形成外科	１診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	２診		谷口		谷口	谷口	谷口
	３診		【金山】		【金山】	【金山】	【金山】
皮膚科	初診／予診		廣田	熊谷	熊谷／山田	山田	廣田
	１診		山田	川田	川田	足立	川田
	２診		熊谷	廣田	増田	増田	山田
眼科	１診		薄木	薄木			薄木
	２診		徳川	徳川	徳川		
	３診		秋田(第2・4)				
泌尿器科	１診		担当医	佐藤	田中	担当医	田中
	２診			大場			大場
放射線科	(IVR)		担当医		担当医		担当医
	(治療)		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間　平日９：00～18：30　土曜日９：00～11：30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
※【　】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。